

前回は、カラスの五感を踏まえた対策を紹介した。今回は、「カカシ効果」を利用した対策を提案する。本連載の第1回で説明したように、カラスは警戒心が強く、目新しいものがあると、とりあえず近づかないという行動を選択する。そこで、目新しい刺激を提示することで、カラスの警戒心をあおり、カラスを追い払うという対策だ。

この対策には、重要な点が二つある。一つ目は、視覚や聴覚に強く訴える刺激を使うことだ。カラスは視覚、特に色覚が優れており、設置物の色を変えるだけで

も、カラスは目新しく感じて警戒する。ちなみに、カラスが嫌いな色は知られておらず、黄色が嫌い、もしくは見えない、というのは俗説にすぎない。ゴミ置場用の黄色のネットが販売され始めたころは、黄色のネットが目新しく、カラスは「カカシ効果」で忌避したと思われる。おそらく、その様子を見た人たちの俗説が生まれたのだろう。

カラスよりも賢く 被害軽減のヒント



④ 習性を利用した対策 その2

汎化が起きているとみられる菜園



カラスが「カカシ効果」に慣れることを理解する



換えたらカラスが来なくなつたという話もある。聴覚に訴える刺激として、猛禽類の鳴き声や人工音を再生するのも効果的である。ただし、これらの刺激による忌避効果は一時的なもので

再生音・再生時間などに変化を与えてやることで、カラスの警戒心をあおり続けることが重要だ。

もう一つの重要な点は、効果が無くなってしまった刺激を、すぐに取り去るというこ

とだ。同じ刺激を使い続けていると、必ずカラスは慣れてしまう。慣れた際に、次々と別の刺激を追加で設置していくと、汎化と呼ばれる現象が起きやすく、もはや別の目新しいものを設置してもカラスは警戒しなくなってしまう。既にカラスが慣れてしまつた対策製品でも、置かないよりは置いておいた方が良いだろうと考えてしまうが、これは逆効果で、むしろ慣れを促してしまう。

さまざまなカラス対策製品を手る所に設置しているにも関わらず被害が減らないという現場も少なくないが、これは、カラスに汎化が起つた末期症状ともいえ、カラス対策は非常に困難なものとなる。